

比較家族史学会

会報 比較家族史 46

事務局 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-7 弘文堂気付

郵便振替(会費)00130-4-25222 (年報バックナンバー・その他)00180-3-604964

比較家族史学会第四九回研究大会

日時 二〇〇六年五月二〇日(土)、二一日(日)

会場 お茶の水女子大学生活科学部本館三階三〇六室

※地下鉄丸の内線茗荷谷駅、有楽町線護国寺駅下車、ただし、護国寺駅もよりの大学南門は土日閉鎖しますので、春日通正門まで廻ってください。

共催 お茶の水女子大学21世紀COEプログラム

「ジェンダー研究のフロンティア」a-1

問合せ先 お茶の水女子大学戒能民江研究室

〒112-1861 東京都文京区大塚二-1-1

電話・FAX 〇三-五九七八-五七八九

資料代 一〇〇〇円(会員外の方も同額)

弁当代 一〇〇〇円

◇一日目・五月二〇日(土)

受付開始

午前九時三〇分

○会長挨拶 岩本由輝(東北学院大学)

午前一〇時〇〇分～一〇時一〇分

○会場校・共催者挨拶

一〇時一〇分～一〇時二〇分

☆シンポジウム

「グローバル化のなかの家族とその変容」

アジアにおける家族とジェンダー

・司会 戒能民江(お茶の水女子大学)、三成美保(摂南大学)

・戒能民江(お茶の水女子大学)

「趣旨説明」

一〇時二〇分～一〇時四〇分

〈第一部 東南アジア・南アジアにおける家族〉

・小ヶ谷千穂(横浜国立大学)

「『家族のため』とは誰のため？」

海外就労とフィリピンをジェンダーから考える

える」

一〇時四〇分～一二時二〇分

・粟屋利江(東京外国語大学)

「植民地インドにおける『家族』のイデオロギーの諸相」

一一時二〇分～一二時〇〇分

一二時〇〇分～一二時三〇分

○昼休み

☆シンポジウム(つづき)

〈第二部 東アジアにおける家族〉

・小浜正子(日本大学)

「中国における人口政策の変動と生殖コントロールの浸透—上海を中心に」

一二時三〇分～一三時四〇分

・申キーヨン(お茶の水女子大学、学術振興会外国人特別研

究員)

「家族というジェンダー・ポリティクス」

韓国の戸主制廃止をめぐる女性・市民社会・国家」

一三時四〇分～一四時二〇分

○休憩

・湯澤直美(立教大学)

「日本におけるひとり親家族政策と
ジェンダー・ポリティクス」

一四時四〇分～一五時二〇分

・牟田和恵(大阪大学)

「近現代日本の生/性の政治とジェ
ンダー家族」

一五時二〇分～一六時〇〇分

○休 憩

○質疑応答 一六時二〇分～一七時四〇分

○懇 親会(一八時～)

会場 お茶の水女子大学食堂

会費 五〇〇〇円

◇二日目・五月二日(日)

☆シンポジウム(つづき)

〈第三部 比較のなかの家族〉

・床谷文雄(大阪大学)

「ヨーロッパにおける家族と家族法
の変容―法は家族を定義できる
のか」

一〇時〇〇分～一〇時四〇分

・岡野八代(立命館大学)

「規範理論における『家族』」

一〇時四〇分～一一時二〇分

・三成美保(摂南大学)

「比較と総括―ジェンダー法史学か
らの問題提起」

一二時二〇分～一二時〇〇分

○昼 休 み 一二時〇〇分～一三時〇〇分

○総 会 一三時〇〇分～一四時〇〇分

○ディスカッション

一四時〇〇分～一七時〇〇分

運営委員 戒能民江(お茶の水女子大学・

委員長)、三成美保(摂南大学)、

床谷文雄(大阪大学)、牟田和恵

(大阪大学)、小谷真男(お茶の水

女子大学)

◆研究大会に関するお知らせ

一 研究大会・懇親会の出欠につきまして
は、すでにご案内の通り、先日同封させ
ていただいた葉書にて、五月二〇日(水)
までにお知らせくださいますようお願い
いたします。資料代として一〇〇〇円、
懇親会費は五〇〇〇円です。当日、受付
にてお支払いください。会員以外の参加
も歓迎いたします。

※なお、先日お送りした案内のなかに
同封されていた振込用紙は年会費用
です。もし、間違われて、この用紙

にて大会参加費等を振り込まれた方
は、お手数ですが、後にある比較家
族史学会事務局(東北学院大学・政
岡伸洋。研究大会の事務局ではあり
ませんのでご注意ください)あてへ
五月一五日(月)までにお知らせくだ
さい。

二 研究大会の会場につきましては、先日
お送りした地図をご参照ください。なお、
本会報の末尾にも掲載させていただいて
おります。

三 研究大会の昼食につきましては、お
弁当を準備いたします。お弁当代は
一〇〇〇円です。希望される方は、これ
も先日お送りした葉書にてお申し込みく
ださい。

四 今回は、事務局でのホテルの斡旋はし
ておりませんので、各自で手配いただき
ますよう、お願い申し上げます。

◆研究大会趣旨説明

今回はグローバル化が進行するなかでの家族の変容をテーマに研究大会を開催する。とくに、今回は家族の再生産機能に着目して、グローバル化のなかのアジアにおける家族とジェンダーについて検討する。今後、本テーマが連続して企画され、さらに、他の地域について、あるいは多様な視点からの検討が行われることを期待したい。

グローバルゼーション、グローバル化は多義的な概念である。一九九〇年代以降は、現代世界を表現する新しい概念としてグローバル化、グローバルゼーションが使われているが、そのことについては、さまざまな見解があるだろう。

伊豫谷登士翁によれば、グローバルゼーション研究には二つの局面がある。

ひとつは、通信産業や情報技術の高度化、企業活動の巨大化、多国籍化、金融の肥大化、大衆文化の情報化、労働力の移動、環境問題など、近年著しく進展している経済、社会、文化、政治、法など多面的な分野における国境を越えた動きであり、国民国家の脱領域化をその基本的な特徴としている。

グローバル化する世界では、家族を含めた人間生活の多くの側面が急速に変化しており、アジアにおける家族構造や家族をめぐる価値観の変化もその例外ではない。

グローバル化のもうひとつの局面は、現代からの近代の逆照射、再解釈という観点である。近代はグローバル化の過程そのものであると同時に、グローバル化の過程が国民国家の分断状況をつくりだしてきたのである。

従来のグローバルゼーション研究にはジェンダー・バイアスが存在し、家族への視点が欠落していたと言える。しかし、一九九〇年代末以降のグローバル化の最新局面では様相は変化している。足立真理子らの研究によれば、グローバル化の最新局面では、移住労働の女性化により再生産労働の国際分業が進み、家族の再生産機能の世界規模での再編成が進行しつつあり、家族の再生産機能はグローバル化の中でその構造を大きく変化しつつある。

たとえば、台湾では日本に先立ってDV防止法が制定されたが、その立法過程を主導したのは高学歴女性を中心としたNGOであった。NGOだけではなく、ソーシャ

ルワーカーや警察、司法などの各分野に進出した高学歴女性が法制度運用の根幹を担っている。だが、それらの高学歴女性の家族のケア役割を低賃金で担うことで、高学歴女性の活動を支えているのが、ドメスティック・ワーカー（家事労働者）として移住してきた東南アジアの女性たちである。また、高齢化の進行とともに、ケア・カーとして移住女性の受け入れが急速に進んでいる。一方、移住女性自身の子育てなどのケア役割は、移住女性の親たちが代わりに担うことになる。さらに、国際結婚の割合が十五組に一組と増加している日本と同様、台湾でも近年国際結婚が増えており、家族が国境を越えて形成されている。

他方、グローバル化は「国民国家の境界線と地域の境界線とが強化され、同時に脆弱化していることに関係している」といわれる（デニス・アルトマン）。日本の少子化対策（産育管理）に典型的に見られるように、家族への再生産機能の「押し戻し」が行われ、家族の公的性格が一方では強化されている。

本シンポジウムでは、グローバル化する世界が家族をめぐるジェンダー配置にどの

ような変化をもたらしているのか、アジア（東南アジア、南アジアおよび東アジア）における家族の変容を学術横断的なアプローチによるアジアにおける対話および欧米世界との比較を通じて考察するとともに、歴史的分析によって現代からの近代の逆照射をも試みる。

シンポジウムは三部構成によって展開される。まず、第一部「東南アジアおよび南アジアにおける家族」については小ヶ谷千穂さん（フィリピン、国際社会学）は海外就労の女性化によるフィリピン家族と「国際化」のせめぎあいを考察し、粟屋利江さん（インド、近現代史）は近代インドの家族言説分析により現代における変動の基点を探る。続いて第二部では、「東アジアにおける家族」をめぐるジェンダー・ポリティックスに迫る。小浜正子さん（中国、近現代史）が中国における生殖コントロールの女性による受容過程を跡づけ、申キーヨンさん（韓国、政治学）は戸主制廃止をめぐって、家族の政治化の力学を女性運動・市民社会・国家の文脈で考察する。日本についてはお二人の報告者をお願いした。湯澤直美さん（日本、社会福祉学）は、ひとり親家族の

日本の特質に迫りながら、戦後日本のひとり親家族政策のジェンダー分析を試み、牟田和恵さん（日本、社会学）は明治以降の近現代の「家族」の意味と、近現代家族を超える方向性を考察する。アジアの状況を受けて、第三部では、「比較の中の家族」として、欧米世界との比較を試みるとともに、家族とジェンダーをめぐる理論的課題を追究する。床谷文雄さん（家族法）の報告では、ヨーロッパにおける家族の変容の検討を通じて、法による家族の定義の可能性と意義を問う。また、岡野八代さん（政治学）は、規範理論における家族の議論を批判的に検討し、新たな家族論への展望を語る。最後に、三成美保さん（法史学）が全体としてのまとめを行い、その後のディスカッションへの問題提起を行う。

◆事務局からの連絡

1 会費納入のお願いと連絡

年会費は、個人会員は三〇〇〇円です。今回は会費未納分のある方に振込用紙を同封しております。住所ラベルの右下の既納年度（二〇〇六年四月二十五日現在）が更新してありますが、同日以降の振込み、

および行き違いの節はご宥怒ください。また、学校法人名で振り込まれるときは必ず通信欄に会員氏名をお書きください。

なお、今年度会費分につきまして、平成一七年六月二十三日に「学校法人追手門学院理事長大木令司」様名の振込分がどなたのものかわかりません。お心当たりの方は、左記の事務局までご連絡ください。

2 ご住所等の変更があった場合、お知らせ等がお送りできなくなりますので、速やかに事務局までお知らせください。なお、左記の方について、転居左記不明で郵便物が返送されてきております。ご存知の方は、お手数ですが、事務局までお知らせいただければ幸いです。

李映京 大森秀子 金城秀樹
田澤薫 陳玲 萩原なつ子
宮原暁 劉夏如

3 学会関連書籍の購入について

これまでたびたびお願い申し上げましたが、現下の出版状況から、特に会員および会員の所属各大学図書館での学会関連書籍購入方につき、特段のご協力を

お願いします。

『シリーズ比較家族』は早稲田大学出版部、『事典家族』は弘文堂、『家族―世紀を超えて』は日本経済評論社にご注文ください。ほかの書籍を含めて二割引で購入できます。なお、その際には、必ず比較家族史学会の会員であることをお申し出ください。

早稲田大学出版部(担当 新井)

電話 03-3203-1551

FAX 03-3207-0406

弘文堂(担当 浦辻)

電話 03-3294-7003

FAX 03-3294-7034

日本経済評論社(担当 谷口)

電話 03-3230-1661

FAX 03-3265-2993

4 『比較家族史研究』バックナンバーについて

『比較家族史研究』の既刊分の総目次はHPに掲載予定ですが、既刊分一三号までは一冊五〇〇円に値下げして販売しております。在庫処分にご協力ください。なお、創刊号から四号までは在庫がありません。購入希望の方は、学会事務局へ

ご連絡ください。

5 事務局連絡先

〒九八〇-八五一 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目三一 東北学院大学文学部 政岡伸洋研究室 気付 比較家族史学会

電話 022-721-3359(直通)

FAX 022-721-3359(直通)

E-mail

◆理事会議事録

日時 二〇〇五年五月二七日(金)

午後六時三〇分

場所 摂南大学一〇号館一〇階法学部

会議室

出席者 三〇名(委任状を含む)

1 新入会員および退会会員の承認

新入会員三名(別項参照)および五名の退会(一三条適用二名を含む)が承認された。

2 『比較家族史研究』について

二〇号の投稿状況および査読結果について報告・確認された。

3 『シリーズ比較家族』について

各巻の進捗状況の報告があり、新たに

京都大学で行なわれた四六回および山形大学での四七回研究大会の成果についても刊行することになった。四六回については、すべて日本語で刊行することから、外国語論文の翻訳について、学会から翻訳料を出すことも承認された。

4 次年度の研究大会および秋季研究大会について

次回の研究大会は、お茶の水女子大学で行なわれることが確認された。また、本年度より研究大会は年一回、春に実施し、テーマを企画したシンポジウム形式で行い、その名称は回数をに入れて「研究大会」とする。秋については、会員から募集した個人報告およびミニシンポを中心とし、名称は「秋季研究大会」とすることが了承された。

5 個人情報保護法への対応について

個人情報保護法の実施および日本学術会議のあり方の変更に伴い、会員名簿をどうするかという点について、もう一度会員への掲載に関する意思確認を行なったうえで作成することになった。

◆総会議事録

- 1 新入会員および退会会員の承認
新入会員三名(別項参照)および五名の退会(一三条適用二名を含む)が報告された。
- 2 『比較家族史研究』について
二〇号の投稿状況および査読結果について報告・確認された。
- 3 『シリーズ比較家族』について
各巻の進捗状況および新たに四六回、四七回研究大会の成果も刊行され、四六回については学会から翻訳料が出されることも報告された。
- 4 次年度の研究大会および秋季研究大会について
次回の研究大会は、お茶の水女子大学で行なわれること、今年度から新たに実施された研究大会のあり方についての報告があった。
- 5 個人情報保護法への対応について
個人情報保護法の実施および日本学術会議のあり方の変更に伴う会員名簿のあり方について報告された。

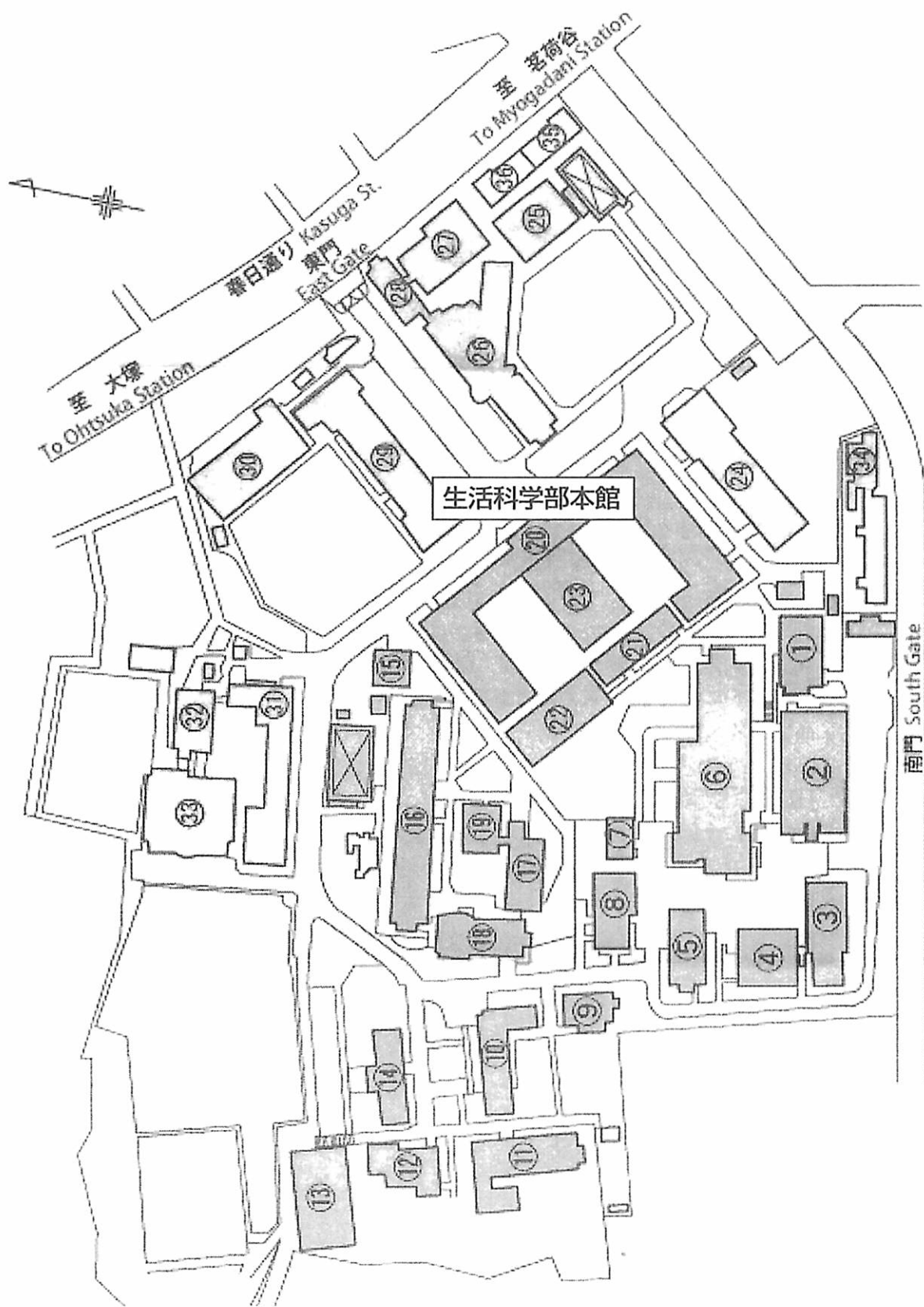
◆新入会員

- 佐藤友光子(四国学院大学、家族社会学・ライフコース研究)
ライカイ・ジョンボル・テイボル
(京都大学大学院生、家族変動)
姜恩和(東京都立大学大学院生、
家族政策と児童福祉)

◆受贈図書

- 小池誠『東インドネシアの家社会―スンバの親族と儀礼―』、見洋書房、二〇〇五年、四三〇〇円(税別)。
岡田あおい『近世村落社会の家と世帯継承―家族類型の変動と回帰―』、知泉書館、二〇〇六年、六五〇〇円(税別)。
野村育世『家族史としての女院論』、校倉書房、二〇〇六年、九〇〇〇円(税別)。
どうもありがとうございました。

キャンパスマップ



交通アクセス



最寄駅まで (時刻表等は各機関のWEBサイトにてご確認ください)

JR 池袋駅から

東京メトロ丸ノ内線「新宿、荻窪方面行」茗荷谷駅下車
 東京メトロ有楽町線「新木場方面行」護国寺駅下車
 都営バス - 都02乙「春日駅(一ツ橋)行」大塚二丁目下車

JR 東京駅又は JR 御茶ノ水駅から

東京メトロ丸ノ内線「池袋方面行」茗荷谷駅下車

JR 大塚駅から

都営バス - 都02「JR 錦糸町駅行」大塚二丁目下車
 都営バス - 急行02「春日駅行」大塚三丁目下車

最寄駅から

東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅	徒歩7分
東京メトロ有楽町線護国寺駅	徒歩8分
都営バス大塚二丁目バス停	徒歩1分